

相模原商工会議所 景気観測調査結果

平成30年度 第3四半期 (平成30年10月～12月)

業況DIは前期に比べ改善。時期見通しは横ばいと予想

ポイント

▶ 平成30年10月～12月期の総合業況DIは▲6と、前期▲19から13ポイントの改善。製造業（前期▲3・今期28）、建設業（前期▲33・今期▲9）の業況変化が大きく貢献した。小売業・卸売業（前期▲32・今期▲23）も小幅ではあるものの改善した。飲食業・サービス業（前期▲12・今期▲12）は横ばいとなった。

コメントでは人手不足を訴える声が依然として多い一方、単価の低迷や案件が少なくなっているとの声や、好景気の実感が感じられないとの声があり、業界やターゲットとする顧客の違いで業況の認識は異なる様子である。

▶ 次期見通しについては、総合業況DIは▲5と、今期▲6から1ポイントの改善。建設業（今期▲9・次期0）、飲食業・サービス業（今期▲12・来期▲5）は改善の見通しを立てているが、製造業（今期28・次期12）は悲観的な見通し。小売業・卸売業（今期▲23・次期▲23）は横ばいと予想している。今期業況が大幅に改善した製造業も一時的なものとの認識をしている様子。他の業種では来期の業況は大幅に変わらないとの予想だった。

各業界から寄せられたコメント

【塗料の製造】

天候不順による顧客メーカーの生産量の影響により、期初計画より着地が若干低くなりそう。

【総合建設業】

オリンピック、パラリンピックに関する建設の量は拡大している。それに伴う人手不足は否めない。大阪万博は好景気の希望になる。

【冷凍食品販売業】

食品業は原料高にもかかわらず、値上げ対応が難しい。

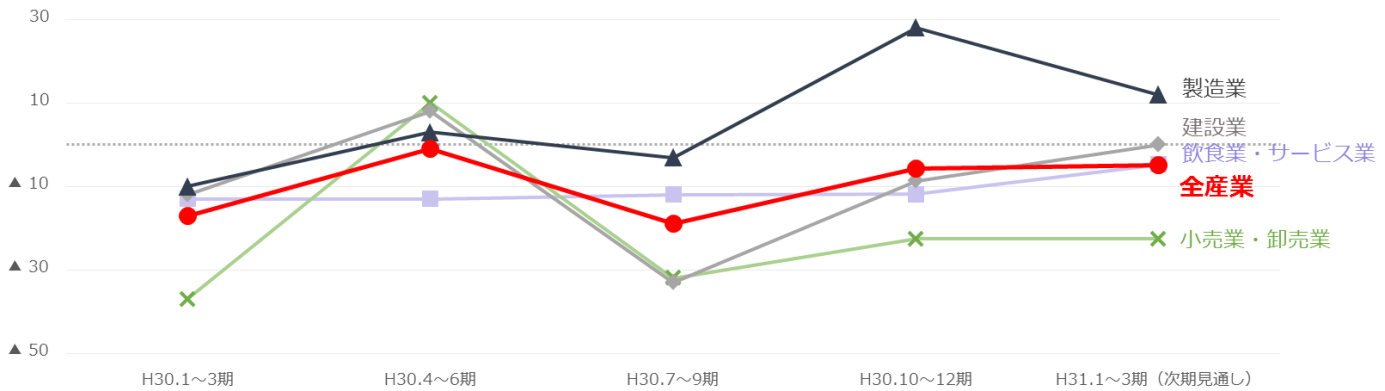
【生鮮食料品】

お客様の高齢化で客単価が下がり、売上が減少している。

【ロボット開発】

人手不足顕在化により、ロボットニーズ増であるが、ロボット開発技術者不足。

業種別業況（総合判断）DI値の推移



	前々期業況 (H30.4-6)	前期業況 (H30.7-9)	今期業況 (H30.10-12)	次期見通し (H31.1-3)
製造業	3 ☁️	▲3 ☁️	28 ☁️	12 ☁️
建設業	8 ☁️	▲33 ☔️	▲9 ☁️	0 ☔️
小売業・卸売業	10 ☁️	▲32 ☔️	▲23 ☔️	▲23 ☔️
飲食業・サービス業	▲13 ☔️	▲12 ☔️	▲12 ☁️	▲5 ☔️
全産業 (総合)	▲1 ☁️	▲19 ☔️	▲6 ☁️	▲5 ☔️

業況天気図凡例



調査期間：平成30年10月1日～平成30年12月28日

回答率：24.2%

回答社数：121社

調査対象：当所会員中小企業500社(業種別に無作為抽出)

◀景気観測調査▶

前年度同時期との業況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。

「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。